



卓 話



「新宿区政の取り組み」

新宿区 区長 中山 弘子氏

区の行政が一番住民に近い、最前線の行政です。皆さんが生まれてからお亡くなりになるまでの福祉や、まちづくりなどあらゆる部分にわたっています。



今日は限られた時間ですので四谷の文化を中心に、話をさせていただきます。

人が暮らしていく上で安全・安心、また経済的な生活の保障というものが一番大きな基盤となりますが、人が良く生きるということを考えたとき、それだけでは足りないと思います。区長になり7年目になりますが、そこに住む人が地域に愛着と誇りを持つことはまちを活性化し、人のつながりを良いものにしていきますので、愛着と誇りを育てる文化を大切にしたいと考えています。

新宿区ではめざすまちの姿として“「新宿力」で創造する、やすらぎとにぎわいのまち”を基本構想・総合計画の中で掲げています。新宿力とは何かと申しますと、こうしたロータリークラブの皆さんのように、まちの中の様々な経済・文化・社会貢献活動をしている多様な力です。そうした力による「文化芸術創造のまち」というまちづくりを目標に掲げています。そしてそういった活動をもっとみんなで、つまり行政と民間で役割分担をするための条例づくりをしていく目的で、2008年12月に「新宿区文化芸術の振興に関する懇談会」を立ち上げました。

会長には区民で、東大名誉教授の、美術史の研究者・評論家でもある、現在大原美術館の館長も勤めていらっしゃる高階秀爾さんをお願いしました。また企業で文化活動を行っているところ、例えば新宿区の大日本印刷は美術館を持っているなど、印刷業と言うことで文化芸術を担っていることからご協力いただいています。このように新宿区の中に色々な力を持った方・団体がいますので、そうした文化団体、事業者、公募の区民の方々にご協力をお願いしていきたいです。新宿区はこうした活動をはじめとして地域の中の文化資源とは何であろうかと模索しています。

新宿の文化資源についてですが「新宿まち歩きガイド文化発掘」というものを発行しています。これは新宿全体

を網羅したマップガイドで、ご覧いただきますと、新宿は江戸時代から都市としての豊かな歴史を持ち、こんなに文化資源があると思っていただけるかと思います。「新宿文化絵図」という江戸時代と現代の重ね地図などをつけた冊子もかなり売れ行きがよいので、こうしたもので楽しく散策していただければと存じます。また、四谷の文化資源を探るとき「歩きたくなるまち 四谷版」という観光マップを「産業振興課」で来外者の皆さんに手に取っていただけるものとして作っています。地域の中にもっとすごい文化資源があるのではと、掘り起こしも行っていますので皆さんにどんどん加わって欲しいと思います。特に四谷は文化資源の集積としては発展途上で現在集積を行っている最中です。

四谷は今年に入って文化的活動を行う施設がオープンしました。「東京おもちゃ美術館」です。最初は全国的なものになるとは考えていなかったのですが、全国から色々な方に来館いただいています。これは中野にあったものですが、館を運営していた方が区民で、廃校になったのなら是非やってみたいということで、四谷第四小学校の一部を使って運営していただいています。この「東京おもちゃ美術館」のある第四小学校は、子どもや多くの人々が集う場所「四谷ひろば」として、多くの地域の人々の参加によって2008年4月から運営されています。

この第四小学校は震災復興のあとに建てられた小学校で、第四小学校はドイツ人の建築家による70年という歴史を持つ建物です。「東京おもちゃ美術館」はこれらの外観を全く変えず、中の耐震、整備していただきました。そしてここに当初私達がみこんでいた人よりはるかに多い方々が入館料を払って来ているのです。「東京おもちゃ美術館」は、世界各地のおもちゃ、民芸品をあつめ展示をすると同時に、アナログのおもちゃで遊んで、触って、楽しめる施設になっており、多くのマスコミにも取り上げられています。一例をあげますと青森の木材を利用して木の部屋というものをつくり、そこでは砂場の砂の代わりに木のボールをいれ、森林浴などをしながら遊べる場所になっています。

その他の四谷の施設を紹介しますと、港区にあった「国際交流基金」がビルを四谷に一棟借りをして移ってきました。またその隣に「韓国文化院」が来年4月オープンします。韓国文化を皆さんに紹介する韓国の施設です。ギャラリーや、300名程収容できるホールなどで韓国文化・芸術の紹介、また図書資料や映像資料、また韓国庭園や韓国貴族の館を再現した部屋を見ていただけるとのことです。

このように四谷は変わってきています。廃校となった旧

四谷第五小学校は、吉本興業の東京本部に生まれ変わりました。新宿区は、廃校になった校舎の利用としてできる限り文化的な利用をしていこうということで、民間のみなさんと文化協定を結んでお互いを助け合おうと考えています。新宿区は「歌舞伎町ルネッサンス」という取り組みをすすめてきましたが、歌舞伎町のように経済活動をしている町はやはり安心・安全のまちというだけでは元氣になれません。犯罪インフラを徹底して除去するとともに、賑わいのプラス・メッセージを発信するまちづくりが大切です。歌舞伎町のDNAは大衆文化、娯楽文化を発信するまちであり、違法な風俗に変わる新しい担い手に来ていただき、産業構造を変える仕組みを作っていかなければなりません。そこで四谷第五小学校に吉本興業にきていただきました。吉本興業も小学校の跡を使うということを非常に大事にしてくれ、外観は変えずに自分たちで中を耐震化して整備し、オフィスにしました。小学校を使うということが自分の力になるということで「吉本笑学校」としてスタートしました。このように文化の連携協定を結び、建物などは皆さんにお任せして、整備していただいた分を家賃から差し引くという形でお貸ししています。

それと同じような例が旧淀橋第三小学校です。(社)日本芸能実演家団体協議会のオフィス・芸能文化拠点「芸能花伝舎」として文化協定を結んで利用してもらっています。邦楽関係からオペラ、バレエ、落語と幅広い団体の事務所、稽古場として、また区民の方々にも芸術・文化を発信していただく場として講座を開いていただいています。

新宿区はまた四谷大木戸の水番所につながる玉川上水を偲ぶ流れづくりを進めています。四谷大木戸は江戸の上水事業を支えた玉川上水の終点という記憶を持った場所です。今、御苑のわきの道路下に玉川上水の遺構が眠っており、そこに水を流せば皇居のお堀までつなげられます。区は調査を行った上、四谷の土地の記憶ということで、玉川上水を偲ぶ流れを復元できないかということで、国や地元の方々と取り組み、2009年度から工事に着手予定です。新宿御苑の遊歩道になっているところに1.5m幅位の水辺をつくり、できたところから利用を開始しますので、近々御苑で玉川上水を偲ぶ水辺を感じていただけたと思います。これは歴史や文化を感じていただく事業であると同時に、

私達が持続可能な問題として取り組んで行くべき重要な問題である環境問題、地球温暖化対策にもつながります。夏の御苑の温度と市街地の温度は何度も違います。水辺と緑は温暖化対策に最強のコンビです。御苑は緑の宝庫で、緑と水辺の冷気で風が起こります。御苑の冷気を新宿のまちにということで、街路樹で冷気をつなげるなど、「新宿にみどりのカーテンをつくろう」というプロジェクトで2000枚のゴーヤのカーテンを作るという活動とあわせ、進めていきたいと思います。水源は多くの検討を重ねた結果、御苑トンネルの捨てていた地下水を活用できることになりました。水循環という意味でも意義があり、御苑の遊歩道に水が出現することで、現在乾燥化している地表面の改善にもつながる事業なのです。

新宿は江戸以来の文化資源を持っているにも関わらず、財産を持ち過ぎて、それに注意を払ってきませんでした。例えば夏目漱石などは新宿区で生まれ、育ち、多くの作品を書いたのですが「坊ちゃん」で松山の方が漱石に注目をしてきました。そこで新宿区でも全区区議会議員の応援も受け、漱石が作品を書いた早稲田南町の漱石山房の復元に「漱石生誕140周年」を期に取り組んでいます。多くの人が行き交い、色々な記憶を持ち過ぎて、見落としてきた部分を、私達がこのまちへの愛着、誇りを育て、みんなで記憶を掘り起こし共有できれば良いと思います。また、誰もが同じ事に共感することは無いので、多様に共感できる仕組みを作り、より多くの皆さんに愛されるまちづくりを進めていきたいと思っています。

最後にこれも一種の文化資源だと思いますが、リサイクル自転車の常設店が四谷に「ふらっと新宿 四谷店」として2008年11月4日、オープンしました。「ふらっと新宿」は1号店が歌舞伎町、2号店は高田馬場、3号店はスポーツセンターの中、四谷店は4号店です。これらは障害を持った人達が働く場所であると同時に、町の人達にボランティアのジョブサポーターとしてこの活動を支援していただくというお店です。障害者の作った朝採れ新鮮野菜や、新宿福祉作業所の焼きたてパンの販売等と合わせて、四谷店はリサイクル自転車を扱う唯一の店舗です。

今日話したことは一部分ですが、意外と私達の町の中に多くの資源が眠っていますので皆さんにもこうした資源を育てていただきたいと思っています。